

● 高大連携事業 県立大学出張講義！

今回のテーマは長崎県の人口や経済関係のデータを元に、人口減少・少子高齢化・地方分権化と財政難の現状を読み取り、いかにして地元経済を活性化していけば良いのかを考えていこうとするものでした。前半の45分は各種のデータを分析し、地元経済が抱える様々な問題点を探り、その関係を明らかにしていこうというスタンスで進められました。

時折難しい経済用語が入りましたが、その都度、用語の説明があり、なんとか高校1・2年生でも理解できる内容であったのではないのでしょうか。後半は6人程度のグループディスカッションで地域活性化のためのアイデアを出し合い、実際にどのように取り組むか具体例も挙げてみようというものでした。最後にそれぞれのグループで話し合った内容を皆の前で発表してもらいました。いきなりこのテーマでは話し合いが進まないのではないかと私の思惑とは正反対に、かなり様々な意見が飛び交い、想像以上の活発なディスカッションとなりました。
(進路指導主事：宮崎 恵)



● 陶芸デザインコース最後の卒業制作展！

陶芸デザインコースとしては最後となる卒業制作展を、12月10日(木)～13日(日)の4日間、佐世保市博物館島瀬美術センターで開催しました。2年生の陶芸教育での観覧もあり、4日間で例年より多い400人以上の方々に来場していただきました。作品点数が例年より少なく、心配しましたが、盛況のうちに終了することができました。

平成7年に普通科の中に設置された本コースは、陶芸とデザインを本格的に学びたいという多くの生徒たちを育ててきました。19年の歳月を経て、昨年度から「美術・工芸科」として、より専門的に学べるようになりました。これまでの卒業制作展を振り返ってみると、作品内容や生徒の取り組みなど、時代とともにずいぶん変わってきたと感じます。しかし、それぞれの学年で個性や特徴があり、生徒たちは学んできた3年間のものづくりへの思いを、この展覧会で表現しようと一生懸命頑張りました。会場まで足を運んでくださった皆様、どうもありがとうございました。
(美術・工芸科主任 岩永聡志)



● 第2学年陶芸教育見学会！

12月11日(金)第2学年陶芸教育見学会を実施しました。本校が進める陶芸教育の一環として、陶磁器の名品鑑賞と近隣地域に現存する古陶磁などの資料見学や磁器皿への絵付け体験を行いました。三川内焼美術館では、多くの名品が展示されており、細かく造形された陶芸品を鑑賞することができました。佐世保市うつわ歴史館では映像鑑賞をさせていただき、三川内焼の歴史に触れることができました。三川内焼伝統産業会館では、実際に磁器皿に絵付けを行い、各自アイデアを出し合い自分の皿を完成させました。午後からは、島瀬美術センターにて本校陶芸デザインコースの卒業制作展を鑑賞し、同じ学校に通う先輩の創作活動に触れることができました。
(美術科 立井匡樹)



● 波佐見町給食用食器刷新！

波佐見町は、町内の小中学校で15年間使用されてきた「給食用食器を刷新」しました。デザインは本校に昨年度新設された「美術・工芸科」一期生の4人(田崎彩花、橋本朔良、前山朋華、横山小夏)が考案しました。伝統的な波佐見焼のイメージを守りつつ、シンプルで飽きのこない模様を目指しデザインしたということです。4人は「子ども達に、ずっと大切に使いてもらい、給食の時間を楽しみにしながら、たくさん食べて、大きく成長してほしい」と笑顔で話していました。
(教頭 小柳勝彦)



〈校訓〉 自律・積極・究理

波高通信



〈スローガン〉「チーム波佐見」～常に前進 常に一步～

第21号 平成27年12月24日発行

校長室より 『天網恢恢疎にして漏らさず』

平成27年を振り返ったとき、今年ほど「天網恢恢疎にして漏らさず」という言葉を実感したことはありません。「天網恢恢疎にして漏らさず」の意味は、「天が張り巡らす網は、広くて一見目が粗いけれども、悪人を網の目から漏らすことはない、悪事を見逃すことはない。そして、必ずその悪事に対する報いを受ける」ということです。つまり「お天道様は、何でもお見通しだ」ということです。



今年の9月、ドイツの自動車大手、フォルクスワーゲンによる排気ガス規制の不正が発覚し、世界的なニュースとなりました。日本では、10月に横浜市のマンションが施行ミスで傾いていることが判明しました。杭が固い地盤に到達せず、データも改ざんされていたということです。その後、他の建物でもデータ改ざんが次々に判明し、建築業界全体の構造的な問題にまで発展しています。12月には化学及血清療法研究所が過去40年間に渡り、組織ぐるみで血液製剤を不正に製造していたことが明るみに出ました。3つとも、まさに「天網恢恢疎にして漏らさず」です。

それでは、本校ではどうでしょうか。この1、2学期、様々な問題行動を起こして特別指導を受けた生徒がいます。指導を受けた生徒の反省文を読むと、ほとんどが「軽い気持ちでやってしまった」と書いてありました。その気持ちの奥底には、おそらく「今まで見つからなかった。たぶん今回も見つからないだろう。見つからなければよかさ。」という甘い考えがあったことと思います。そして、指導を受けたときの心境については、「なんて馬鹿なことをしてしまったんだろう」「親や学校に迷惑をかけてしまって後悔している」「今後二度とこういうことをしない」「周りから信用されるように頑張りたい」と述べています。人の行いは他人に知られないようで、必ずどこかで誰かが見えています。それに何より誰も見ていなくても、自分の行いは自分自身が一番よく知っています。「どうせばれんさ！」などと、世の中を甘く考えず、「天網恢恢疎にして漏らさず」という言葉を心に刻んで欲しいと思います。

ところで、私は、「天網恢恢疎にして漏らさず」という言葉には、「天は、悪いことを見逃さず処罰するだけではなく、親切や努力などよい行いについても、見落すことなく正しく評価して、褒め称える」という意味もあるのではないかと思います。つまり、「人の目の届かない所で良い行いの積み重ねや小さな努力の積み重ねをすることで、必ず、良い成果が表れたり認められたりする」というふうにも捉えることができるのではないかと思います。毎日のあいさつ、体育祭や文化発表会の大成功、19年ぶりの高校駅伝出場、県展25名という過去最高の入選入賞は、まさに日頃の小さな努力の積み重ねが評価された結果ではないでしょうか。また、皆さんが、波佐見町内の様々なイベントでのボランティア活動をしてくれたことや地域のお年寄りを助けてくれたことで、地域の方々からたくさんの感謝の言葉をいただいています。周りの人たちは、ちゃんと見てくださっているのです。

3学期も、人の目の届くところはもちろんですが、届かない所にこそ気を配り、良い行いを積み重ねてください。小さな努力を積み重ねてください。必ず、その姿を誰かがどこかで見えています。同時に、皆さんの良さや能力がますます磨かれていくことになると思います。平成28年がもうすぐやってきます。その新しい1年が、すべての人にとって良い1年になることを祈っています。
(野田定延)

防災訓練

『今や、火災だけではない！ 地震に注意！』

12月4日期末考査最終日。テスト終了後に「緊急速報。ただいまから大きな揺れがあります。揺れに備えてください。」と放送が入った。生徒は窓から離れ、机の下に避難。先生はドアを開け避難経路を確保。昨年までは火事による避難訓練でしたが、今年は「地震速報→防災対策→地震→避難→火災発生→避難」を行いました。前日に訓練の意義や避難方法、心構えを伝え、生徒は当然ですが、我々職員も緊張感を持って取り組みました。「お・は・し・も」(押さない・走らない・しゃべらない・戻らない)が学校(集団)での避難におけるキーワードです。「〇〇町 防災マップ」で自宅・職場周辺の危険箇所を検索することができます。この機会に防災での「家庭の決め事・避難場所」について話をしてください。(生徒指導主任 川瀬啓典)



献血初体験！

12月10日(木)、今年も本校に献血車がやってきました。去年は、県内の公立高校のなかで第2位の献血数でしたが、今年は呼びかけてもなかなか集まらず、10名前後になってしまうのかなと思っていたところ、当日の希望者が増えた結果、去年の38名を更に上回る**45名**の生徒に協力してもらうことができました。

初めは「痛いのが嫌」という人が多かったのですが、実施後は、「痛くなかった」「思ったより楽だった」との声も聞かれました。中には途中で具合が悪くなってしまった人もいました。献血に対してマイナスのイメージを持っている人も多いと思いますが、実際にやってみると「そうでもなかった」と思う人が多いようです。献血センターの方が言うには「一度、献血を経験した人が2回目の献血のすることは簡単ですが、一度も献血をしたことがない人が、献血をするにはかなりの抵抗がある」と言うことです。「いのち」をつなぐ献血、これを期にぜひ今後も献血に協力して欲しいと思います。1・2年生は、来年、再来年のご協力をよろしくお願い致します。(養護教諭 櫻井絃子)



3学期に向けて 《各学年主任の思い！》

●1学年 「進路希望を具体的に考えよう」と、職業講話や進路研究などを実施し、生徒たちの進路希望も少しずつ形が見えてきた2学期でした。2月にはインターンシップも予定しているのので、「働く」という意識をより高めていきたいです。3学期は「2年生の0学期」です。新年から良いスタートがきれるように一人一人が目標を持って努力していくことを期待しています。(1学年主任 川内英樹)

●2学年 2学年の年間スローガンは『日進月歩』です。本年度も4分の3が過ぎましたが「進み具合」はどのようでしょうか。少しでも前へ進みましたか。12月に実施したインターンシップでは、各事業所に好印象を与えることが出来ました。生徒たちのアンケートにも「大変役に立った」が75%「役に立った」を加えると98%にもなりました。生徒たちにも実施した成果が見られます。さて、進路学習の一環として、冬休みに**進路第一志望届**を書くように指導しています。保護者の方も一緒に生徒の進路について、話し合う機会を設けて下さい。3学期には、**修学旅行**という大きな行事が控えています。始業式に元気な顔で会いましょう。(2学年主任 今村 勲)

●3学年 卒業までに残された時間はあと三ヶ月余りです。社会人になる前や上級学校に進学する前のこの時期に、あらためて自分を見つめ直して、自分に足りないものは何か考えてみましょう。例えば、就職試験合格者は現時点では内定であって、『入社決定』ではありません。社会人にとって、社会常識が身につけていないと恥ずかしい思いをすることになります。進学試験合格者も正式な『入学許可』が降りるまでに、学力不足を少しでも解消しておくことが大切です。今のうちにやるべきことが山ほどあります。(3学年主任 平林宏幸)

主権者教育 ～選挙管理委員会講演等～

12月14日(月)主権者教育の一環として、**波佐見町選挙管理委員会より講演及び模擬投票**をしていただきました。18才以上に選挙権年齢が引き下げられた理由や選挙の概要説明のあと、**〇×クイズ**をしました。そのクイズに生徒たちは用紙を掲げて意思表示しましたが、なかなかの難問だったのか、全問正解はたったの一人でした。質疑応答では「誕生日が投票日と重なる時、選挙権はありますか」「投票について親や友達と相談していいですか」等の質問の後、最後に模擬投票をしました。立会人役、投票する役などが舞台上上がり、緊張しながらもしっかりと役を演じていました。

今回、波佐見町選挙管理委員会のご協力を得て、このような講演・模擬投票ができたのは非常に意義深く、**生徒の関心もかなり高まったようです**。来年からの選挙に準備ができた1日となりました。(教務主任 安達 健)



2年生インターンシップ

『お客様に感謝されて！』

2年生のインターンシップを、12月7日から10日まで実施しました。寒空の下、生徒たちは46班に分かれて職場に赴き、普段の学校生活とは違った雰囲気の中で4日間を過ごしました。レストランで働いた女子生徒は「コップを落として割った時は、泣きたい気持ちになりました。でもコーヒーを持っていった時、お客様に『ありがとう』と言われ、仕事をするとこんなに楽しいことなんだと実感しました」と感想文に書いています。働くことの厳しさと喜びを少し味わうことができたようです。

また生徒の感想文より、従業員の方に色々なアドバイスを受けた様子もうかがえました。「自分の子どもが生まれたときにしっかり子育てができるように、よく勉強してください」と言われたり、「高校時代の友だちが、一生の友達になるよ」と言われた生徒もいました。更に「今から30年くらい前に波佐見高校を卒業したよ。僕らの時代に野球部の雨天練習場ができてとても嬉しかった」という経験を聞いた生徒もいました。

12月16日には「**インターンシップ発表会**」を体育館で行いました。46班全員が交互に前に出て、マイク片手に自分たちの体験を発表。最優秀賞に選ばれたのは、厳しい訓練の様子を生き生きと話してくれた自衛隊大村駐屯地に実習に行った班でした。(2学年インターンシップ担当 藤迫 明)



平成28年1月の行事予定

今年の目標を掲げよう！

1月 1日(金)	元旦	1月 5日(火)	HTB研修報告会
1月 8日(金)	3学期始業式	1月8日～15日	新春爽やか挨拶運動
1月12日(火)	基礎力診断テスト	1月20日(水)	人権同和教育
1月27日(水)	マナー講座	1月26日～29日	3学年末考査

未来の自分を変えるのは
『今の自分』
(竹下夏佳)

